



【巻頭言】

お客様のご要望と異業種とのコラボが 開く「発泡スチロール」の未来

トーホー工業株式会社
代表取締役 近藤 大輔
D. Kondo

発泡スチロールが、電化製品を保護する緩衝材や魚や野菜の鮮度を維持する容器として使われていることはよく知られています。

他方、発泡スチロールのもっている多様な性能についてはあまり知られていません。

例えば、緩衝性能は生卵のような割れやすいものでも、強い衝撃から確実に守ります。身近に発泡スチロールの箱があれば試してみてください。箱の中に生卵1個をそのまま入れてしっかりとふたをします。そして、その箱を思いっきり強く地面に叩きつけてください。何回繰り返しても割れない生卵に驚かれることでしょう。

発泡スチロールの優れた緩衝性能を利用して日本の電化製品が世界中に出荷されました。発泡スチロールは『メイド・イン・ジャパン』ブランドを広げた影の立役者といえるでしょう。

またヨーロッパでは、発泡スチロールは建物の断熱材として、地球温暖化対策のフロントランナーとなっています。発泡スチロール自体は環境にやさしい炭素Cと水素Hのみで組成されている上に、断熱性能の優れた持続性は長期間にわたる省エネルギーへの貢献を約束しています。

そして日本では、この断熱性能は食品の鮮度保持のために大活躍しています。北海道で獲れた魚を遠く離れた地で刺身で食べることなど、今では普通のことになっています。

このように、緩衝性、断熱性に加え、軽量で強度があること、水や湿気に強いこと、複雑な形状にも成形できることなどから、発泡スチロールはさまざまな分野で無限の可能性をもっています。

私たちトーホー工業は60年前、単純な発泡スチロール成形業からスタートしました。現在では発泡スチロール製品の設計から金型製作、成形、二次加工、品質管理のための計測・分析までのすべてを社内で一貫して行っております。

私たちは、発泡スチロールをこれまでの枠にとらわれない発想で、農業分野、工業分野をはじめあらゆる分野へ展開することを、『NEXT50』と名付けて2050年までの事業活動のテーマとしています。そのために、他素材や異業種とのコラボレーションを経営の柱と位置付けております。

トーホー工業は、皆様の“こんなものを発泡スチロールで作れないか”というご要望と、“新しい産業資材を一緒に開発しよう”というパートナーを心よりお待ちしております。